

下商二二会報

緑野

発行

下商二二会

会報委員長

稲川喜一

桜川市長方667

TEL 0296(76)1992



下商二二会 平成20年5月12日 於 笠間山の荘

廃刊の辞

緑野広報委員長 稲川 喜一
昭和六十一年十二月二十二日
緑野第一号を発行して、二十年
が経過いたしました。

号を重ねること二十四号、
二二会の絆としてその役割を担
つて来ました。まだまだ続けら
れたらの思いと、未練が無いと
言ったら嘘になります。誠に残
念無念淋しい限りです。

会長の追悼の辞を書き終った
今、二十四号をもって絶版する
ことに致しました。傘寿を迎え
た我々の力量から推しても最後
と考えました。

費用と原稿の有る限り、縮小
しても緑野だけは続けて欲しい
と、決議したのは平成十六年鬼
怒川総会です。それは緑野が
二二会の顔、会員の消息、相互
理解と親睦、終身に至るまでの
交流や協調等の機能を十分果し
ていたからです。それで支援が
あつて続いたと思っています。

長い間緑野を愛し育ててくれ
た諸兄に編集子として厚くお礼
申し上げます。

最後に少々誌歴を数字で拾つ
てみました。

最終二十四号まで総ページ数
にして二〇四ページ、そのまま

二二会誌として一冊の本になる
内容を持っています。(費用が
なくて残念です) 毎号八ページ
が多く縮小版は二十三、二十四
号のみです。
会員の動向を掲載の中から見
ると、

昭和六十一年 一六四名

(内死亡者二十一名)

平成十三年 一〇八名

平成二十年 九十五名位

(消息が分かる)

同窓会の出席状況

昭和六十一年 筑波グランド

ホテル 六十名出席

平成元年 ニュー岡部 五十七名出席

平成八年 母校卒業五十周年
記念式典 三十五名出席

平成十一年 笠間山の荘
二十五名出席

平成十九年 筑波グランドホ
テル 十六名出席

平成二十年 笠間山の荘
十一名出席

会報は消えても二二会は存続
しています。お互い元気を出し
て頑張ることを誓って 緑野
万歳 万歳 万歳 を三唱して
廃刊の辞とします。応援有難う
ございました。

山本巖会長追悼



在りし日の会長

平成二十年二月五日病に勝てなかつた。突然二二会を残して逝去する。訃報を受けて副会長さんと相談し、九日の告別式には下商二二会として、供花、香料、弔辞を捧げて二十数名の参列者が同窓を代表して在り日の功績を称え、謹んで弔意表わした。

「花みずき」の告別式には彼の生前を語る各界の知名の方々も多数参列して別れを惜しんだ。盛大な葬儀が営まれました。改めて同窓各位とご冥福をお祈りします。 合掌

亡き山本君に捧ぐ(弔辞)

下商二二会代表 市村 芳男
山本巖君！かねてから病を得ておられた事は知っておりましたが、この度、突然の訃報にただただ驚いております。
御家族の方々の悲しみも又、如

何ばかりか、と御同情申し上げます。

思えば君は下商二二会創設のときから、我々同期生の先頭に立つて、会長としての指導力を如何なく発揮し、長い間、惜しみない努力をされて参りました。特に印象

が深いのは、恩師を始め、同窓生の葬儀等の際、遠近を問わず、必ず参列し、常に格調高い弔辞を捧げ続けたその姿には、本当に感嘆に値するものがありました。その君が今、立場を逆に、この様に弔辞を受ける事になって、さぞかし残念な思いだろうと推察するばかりです。

考えてみますに、私達下商二二会同窓生ほど、数奇な運命を経た者は、他にないのではないかと、思います。学校へ入学の時点は、太平洋戦争の初期で、正に勝ち戦それから、学徒動員を期に、卒業の前年に敗戦、混沌たる戦後の日本の社会に、放り出され、苦心惨憺……何とか、現在の日本の繁栄の基礎を担った私達です。我々仲間の人一人が、それこそ小説上り奇な体験を、持っている筈です。

勿論、山本君も、このような戦後の社会の苦しみを勝ち抜き、現在の立派な会社に発展させられ、又、結城市の為に多大な貢献を、なされた事は、改めて言うまでもないものと思います。

世間は、我々を「後期高齢者」と呼んでおりますが、我々の歩んできた実績からみればそれは「光輝功労者」と呼ばれて然るべきではないでしょうか。光輝功労者の山本君！下商二二会をこよなく愛された山本君！どうか安らかに眠って下さい。 合掌

山本会長よありがとう

飯岡 麒一

二月六日、稲川君より、山本会長逝去の訃報を受ける。最近体調不良であることは知ってはいいたが、唯々残念。二二会の発展、運営に一生懸命お骨折りにしてくれた長い間の労苦に対し感謝の気持ちで一杯であった。

手元に『二二会のあゆみ』なるメモがある。第一回総会は、昭和二十二年頃、母校東昇降口とあり、以後本年五月の筈間、山の荘総会まで十八回に及んでいる。昭和四十七年頃、岩瀬上の原ホテルでの総会あたりから本格的に行わ

れるようになり、昭和六十一年秋の筑波グランドホテルの総会において規約、会報発行が承認され、同年十二月『緑野』の第一号が創刊され現在まで二十三号を発行した。

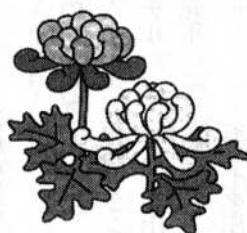
山本会長よ。四十年余の長い間、二二会の為に誠心誠意尽力されたことに礼を申しあげる。 合掌
本当に、ありがとう。

お清め料

一金 参万円

ご遺族よりお清め料として頂きました。告別式後、結城で参列者一同昼食会を開き、会長の思い出話をしました。その費用に充てました。涙雨が雪に変わった午後でした。山本家に厚くお礼申し上げます。

お便り



稲葉 盛祐

先日はいろいろお世話になり、楽しい同窓会が出来まして本当に有難うございました。

写真送りますが、仲居さんの手ブレで良く撮れていませんでした。

又お会い出来ます事を楽しみにしております。

追憶

島村 佳利

下商時代の思い出の中で通学時の思い出を書くとき七時三十七分と言う時刻がどうしても頭の中に浮びます。これは岩瀬駅発の通学列車の時刻です。水戸線はこの汽車にて通学することになっていたからです。水戸線は岩瀬駅にて上下線がホームで待機するためどちらかが遅くなると待機時間が多くなります。それ故当方にとって都合の良い事で、一度もこの列車に乗り遅れた事がありませんでした。当方は自宅より駅まで三キロ位あり途中元岩瀬を経由する。元岩瀬に先輩の江尻さん宅がありその前を通過する時必ず先輩が出て来て共に駅に向う。途中で時間に間に合わなくなる時が多々ありました。今はなつかしくなっています。先輩が、当時は蒸気機関車でのりの羽黒駅を出る様子が聞こえて来ました。その音を聞きながら駆け足で駅に到着、跨線橋をかけ上がり二番線ホームに到着している汽車に飛び乗ると多くの男女生徒でいつも列車内は満員でした。この列車には真壁方面から筑波線に乗って来る人々も一緒に活気にあ



ふれてました。現今SL列車は観光地で観光の目玉として運行されてあの頃の盛況は見られなくなり淋しいものです。十年前前大井川鉄道をSLが運行してゐるので乗車しました。車窓の風景こそあれどあれから六十余年の歳月の流を感じ乍ら七時三十七分と言う時を思い浮かべ感無量になりました。毎日七時三十七分になると必ず通学時代が思い出され、あの人はどうしてゐるだろうかなどと考える日々でもあります。八十才になる日、どんな心境でこの数字と出合うのだろうか、体に氣をつけて又皆様に再会出来る喜びを味わいたいです。皆々様の健康を祈ります。

七時三十七分の思い出に寄せて

やまき

平成二十年九月二十七日、下館市末広町の表題の食彩酒家、「やまき」で昼食会を催しました。会場

設定は笠間の荒木博行兄。人集めは地元のものもあつてその道の通飯島隆夫兄をはじめ通学班の有志が骨折つてくれました。近年になり十七名の出席を頂きました。

地元で日帰りの昼食会が受けたことは事実で、このような形なら出席しやすいので度々開いて欲しいと言う要望を受けました。

会の雰囲気はヨロ!! その後はコミュニケーションの花盛り、再会にわく笑顔が絶えない。

飯島から、前夜、下館飛行場にいた特攻隊の生き残りが、動員学徒の飯島等を頼りに下館を訪ねて来て一席を持って、遠い日の生死をかけた青春を語り明かした感激の再会のお話に会場も一瞬静かになった。飛行場班に聞かせたかった話のひとつだ。

出席者は

荒木博行 船橋源彦 稲川喜一
藤井宣司 島村佳利 小林忠治
木村芳和 増田久男 篠崎武男
飯岡一 稲葉盛祐 須藤桂助
日向弘 市村芳男 広瀬義雄

石塚哲次郎 飯島隆夫の諸兄。

次回出席希望の方へ

この会は電話連絡で行います。次回又開催することは出席者全一致で了解いたしました。電話連絡の欲しい方は、とりあえず、前記出席者に連絡して欲しい。依頼された方は、大変でも開催の時は連絡してやって下さい。そして仲間を誘って元気に楽しい会をまた開きましょう。

消息

山の荘同窓会の案内状を差上げた六十名近い方々から、出席十四名。欠席三十五名の返信を頂きました。

欠席の理由の最高は病気で二十一名です。人間ドックから通院手術後の治療。体調不良で外泊に自信がない等です。

次にご都合がつかないので、欠席しますという方々が十名ありました。

おめでたいのは係の結婚式。そろそろ皆さんにも巡つて来そうです。それまでにと生きがいにして頑張ります。

お仕事の日程で……生涯現役すばらしい若さの人生に敬服いたします。

ました。

旅行、ゴルフ等趣味の余生にご多忙の方々もいらつしやいます。ご不幸もありました。奥様を亡くした方、子供さんに先立たれた方本当に胸が痛みました。ご冥福をお祈りします。

元気に過ごしておりますが、欠席しますからよろしくという方が四名ございました。

出席とのお返事が十四名ありました。

平成十三年一月一日発行緑野一七号の通学班別名簿に一〇八名の氏名が並んでいます。平成二十年末では九十名位の方々が消息の分かる範囲のようです。

八十路はゆつくりしつかり生きたいものです。

差別二題

一、後期高齢者医療制度が発足した。収入が年金程度の老人だけでは保険料負担が重荷になる。多額の援助を受けて成り立っているが、赤字続きになるだろう、医療が心配だ。

二、もみじマーク 車に乗れば七十五才以上の高齢者運転の車と目で分る。教習所で高齢者運転の再教育を受けさせても。

編集長を称う

下館班 飯島 隆夫

(稲川) 長い間ほんとうにお疲れ様でした。二二会発足より緑野を起草刊行し我々同窓生(その家族)の目を十分楽しませてくれました。有難とう。緑野は同窓会の中核となり声の連絡便であり、行事の遂行、そしてなによりも同窓生の信頼向上の任務を果してきました。この功績は誠称賛に値するものといっても過言ではないでしょう。発行当初の緑野は投稿者が多く限られた枠内での編集であるためその選考には特に気を使うものの、余儀なくボツしなければならなかった無念さ悔しさに悩み心労が絶えなかったと聞き及んでいます。仲間内の記事掲載が如何に難しいかを改めて痛感致しました。

お陰をもちまして私も一愛読者として毎回頁を開き友人達の生き様を身近に感知、残り少ない人生の礎として頑張つて行きたいと思っています。昨年会長の計報があり又多くの友人達の悲しみ耳にしています。それに順じてか最近緑野終焉の噂を聞き驚きと同時に、今傘寿を眼前に又一つ楽しみが消え失せるかと思うと淋しさがこみ上

げて来ます。残念無念と言う外はございません。さて君は発行より二十有余年よく会長を補佐一方緑野を通して我等同窓生を鼓舞激励してくれました。私なりに感謝の意を表したいと思っています。

「君!! 稲川喜一」とはいつも殿

様顔で悠々と人と接するとき誰彼を問わずおだやかに笑顔をたやさず又語り口は低音で重厚です。だが一旦議論をはさむとその説得力は抜群いつの間にか引き込まれてしまふ魔力を持つ男と極めつけたがこれこそ奥様の判断を仰ぐ外ほんとうのことは解らない様な気がします。

今日はそんな編集長稲川に心からの賛辞と拍手を贈りたい。

山の莊同窓会

稲川 喜一

今後の同窓会と呼びかけがあったら参加して下さい。それを受けて、今回水戸班の荒木博行、船橋源彦、仁平和三兄の発案で有志が相談して、山の莊で五月十二日一泊同窓会を開催することが出来た。参加者は十一名まで減少したことは、とても淋しく残念と言う声が出た。これも高齢化が進み止めることは出来ない話し合っ

(参加者写真参照)

でも、参加者の皆さんは、若く元気溌刺で酒量も現役並。軍歌が出で一氣に下商時代の青春に戻りました。

笠間は昔からお座敷ムードのある所と同窓会にはもってこいの会場であった。

部屋に下がつての車座懇親がよかった。

天下国家の政りごとに自説を披露したり、どこにでもある家庭の話に共感したり、今の若い者はと言いながら、妻や子供への思いを語つて夜が更けていった。

もやもやも、何もかも許せる友と語り忘却の世界へ追いやつた、別れの朝は誠にすがすがしい。

笑顔を残して又やろう!! と再開を約束して笠間を去つて行く友の後姿を見送った。

背筋がピンと伸びている。まだまだ同窓会の役目は終わっていないと思つた。

次回の種子をまいた同窓会であつたと思つている。



会 計 報 告

(H16.11.1 ~ H20.9.26) 3年10ヶ月

収 入 の 部		支 出 の 部		単位円
前回より繰越資金	539,343	会報発行費 (21号~23号)	249,474	
年会費	95,000	慶弔見舞金 (7人)	218,624	
総会残金 (2回)	28,208	通信費	23,500	
雑収入 (香典返し・寄付)	92,000	支払手数料	2,865	
預け金利息	934	会議費	10,000	
		総会補助 (20.5月)	47,000	
		次回へ繰越金	204,022	
合 計	755,485	合 計	755,485	

◆ 編集後記 ◆

二十年間へボ編集長で悪かった。済まなかったと思ひ続けていた。

交替も何度か願ひ出た。これで廃刊するかと幾度か考えた。その都度、緑野は存続する声に押し切られて続投してきた。

お人良しが幸いしたのか? と思っていたら、今回驚くことに飯島のホメ殺しにホロリとした。

続けて来てよかったんだと。能はなかったけれど誰よりも緑野を愛していた自負だけは今も残っている。

飯島が言うように緑野は、会の中核、連絡調整、消息、仲間意識等いろいろな顔を持っていた。それを楽しみに読んでくれた諸兄がいたことを心から感謝申し上げます。

新語・流行語ベスト10が出て、平成二十年の歳末になりました。いよいよ八十路の坂を上り始めることになりました。

無理なく、身も心も美しく老いる大樹になろう。

愚痴らず、感謝の心を忘れない好々爺を目指そう。

各位の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

稲川 喜一